２０１８年（平成３０年）１１月１０日　土曜日

デーリー東北　１０面　掲載

東邦下し光星8強

第49回明治神宮野球大会は９日、神宮球場で開幕し、高校と大学の部の１回戦計４試合を行った。各地区秋季大会を制した10校が参加する高校の部では、東北地区代表の八学光星が東海地区代表の東邦（愛知）を７―３で下し、11日の準々決勝に駒を進めた。

このほか高校では、初出場の札幌大谷（北海道）が龍谷大平安（京都）に６―５で競り勝った。大学では関西国際大と環太平洋大がそれぞれ初戦を突破した。

10日は高校の準々決勝、大学の１回戦と準々決勝の計４試合を行う。（藤野武）

明治神宮野球大会

後藤 粘り強く完投

5年ぶりの明治神宮大会で、初戦を白星で飾った八学光星。初回から一気呵成（かせい）に東邦（愛知）を攻め込む一方、3失点で完投したエース後藤丈海の粘り強い投球が勝利を手繰り寄せた。仲井宗基監督も「今日は後藤のピッチングに尽きる」と活躍をたたえた。

中盤まで2点に抑えた後藤だが、長打への警戒心は最後まで緩まなかった。七回には失策も絡み2点差に迫られたが、続く1死満塁のピンチを連続凡打で打ち取った。

「制球力には自信がある。相手が良い振りだったのでスライダーを低めに集めた」と後藤。「日本一を目指して練習してきた。自分が最後まで投げ続けたかった」と胸を張った。

東邦は、2年前の夏の甲子園大会で最大7点差を逆転された因縁の相手でもある。「変化球の切れが良かった。2巡目でどう捉えるかだったが…」と唇をかんだ森田泰弘監督。

一方、光星は九回に3番武岡龍世がダメ押しの本塁打を放ち、仲井監督は「全員で勝つんだという気持ちが出た。1戦でも多く、今の自分たちがどこまで通用するのか確かめたい」と次戦を見据えた。

（藤野武）

【八学光星―東邦】完投勝利した八学光星の主戦、後藤丈海＝神宮球場

下山が先制打

○…同じく強打が売りの東邦（愛知）に対し、八学光星は初回2死から大量5得点をたたき出し、序盤で試合の流れを引き寄せた。先制打を放った6番下山昂大は「チャンスで回ってくる大事な打順。監督の期待に応える気持ちで打った」と満足そうに語った。

【八学光星―東邦】初回八学光星2死満塁、下山昂大が左前に先制の2点適時打を放つ

【高校】

▽1回戦

八学光星	500000002	7
東邦（東海）	100010100	3

（八）後藤－太山

（東）石川、奥田－成沢

▽本塁打　武岡（八）

▽二塁打　大江（八）石川、坂上（東）

【評】八学光星は初回、2死満塁から下山の適時打で2点を先制すると、大江、原も続き、この回だけで計5得点。九回にも武岡の本塁打などでさらに2点を追加し、突き放した。先発した後藤は計11安打を浴びながらも投げ切り、相手の反撃を3点に押さえ込んだ。

龍谷大平安（近畿）	000004100	5
札幌大谷（北海道）	50000100×	6

（龍）野澤、豊田－多田

（札）西原、太田－飯田

▽二塁打　佐藤、佐野（札）

【大学】

▽1回戦

中部学院大（愛知・東海・北陸）	0100000	1
関西国際大（関西2）	2104001×	8

（7回コールド）

（中）若山、櫻糀、井上、秋田、大中－高杯

（関）武次－深尾

▽本塁打　尾崎、深尾（関）

▽二塁打　有本（関）

函館大（北海道）	000000100	1
環太平洋大（中国・四国）	00100100×	2

（函）福岡－沼上

（環）西山、仲尾、大石－志賀

▽三塁打　志賀（環）

【八学光星】		打	安	点	振	球
④	伊藤	3	1	0	0	2
⑧	島袋	5	0	0	1	0
⑥	武岡	5	2	1	1	0
③	近藤	4	0	0	0	1
②	太山	4	2	0	2	1
⑤	下山	5	2	3	0	0
⑦	大江	4	1	2	1	1
⑨	原	4	3	1	0	1
①	後藤	4	0	0	0	1

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
0	0	2	0	11	38	11	7	5	7

【東邦】		打	安	点	振	球
③7	松井	5	1	0	1	0
④	杉浦	4	2	1	1	0
①5	石川	5	2	0	0	0
⑥	熊田	5	1	1	0	0
⑤3	長屋	4	1	1	0	0
⑨	坂上	4	1	0	0	0
②	成沢	4	0	0	0	0
⑧	河合	4	1	0	1	0
⑦	植田	3	2	0	0	1
1	奥田	0	0	0	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
1	0	1	1	10	38	11	3	3	1

投手	回	打	安	振	球	失
後藤	9	40	11	3	1	3
石川	8 1/3	41	9	4	7	7
奥田	2/3	4	2	1	0	0

デーリー東北新聞社提供